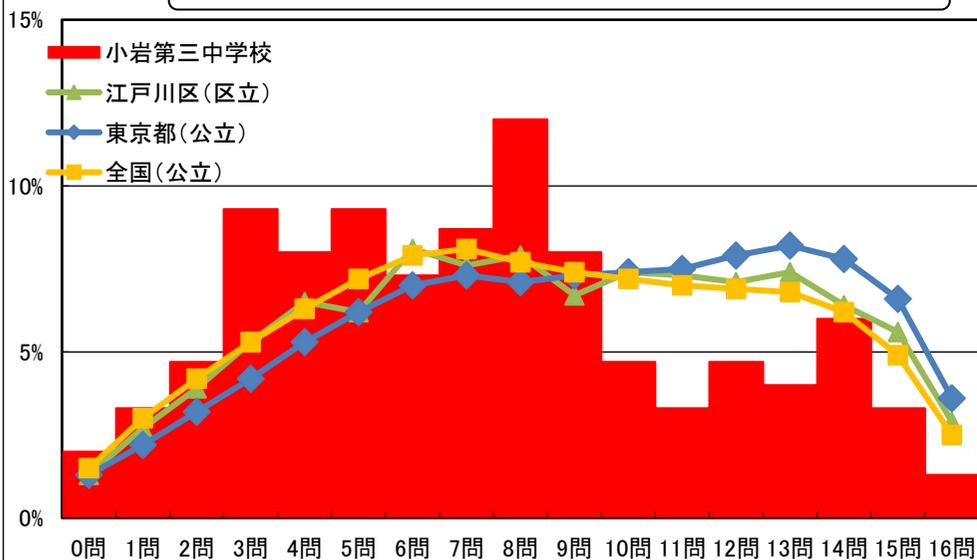


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【数学】 小岩第三中学校

正答数分布

平均正答数

小岩第三中学校：7.4問
 東京都（公立）：9.1問
 江戸川区（区立）：8.6問
 全国（公立）：8.4問



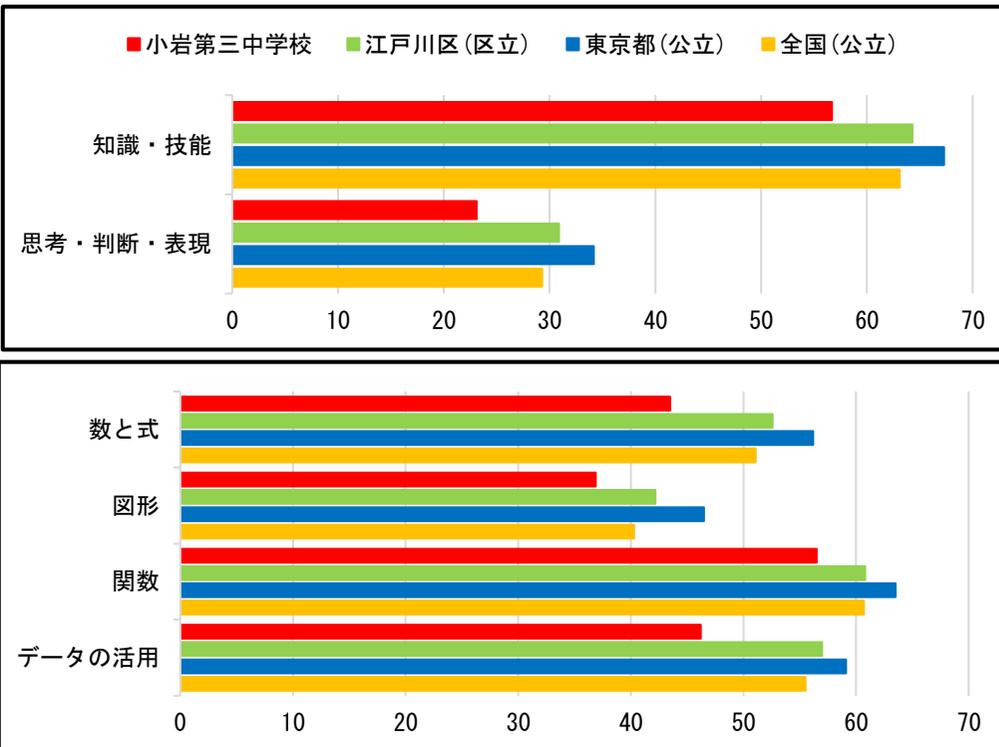
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← 下位

| 数 学 | A層 13～16問 | B層 9～12問 | C層 6～8問 | D層 0～5問 |
|----------|--------------|-------------|------------|------------|
| 小岩第三中学校 | 14.6 | 20.7 | 28.0 | 36.6 |
| 江戸川区（区立） | 22.3 | 28.5 | 23.6 | 25.6 |
| 東京都（公立） | 26.2 | 30.1 | 21.4 | 22.3 |
| 全国（公立） | 20.4 | 28.5 | 23.7 | 27.4 |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、生徒数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって生徒をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の生徒の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

| | |
|----------|---------|
| 小岩第三中学校 | 46% |
| 江戸川区（区立） | 54% |
| 東京都（公立） | 57% |
| 全国（公立） | 52.5% |
| 都との差 | -11ポイント |

%

【分析結果と授業改善に向けて】

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。また、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。したがって、授業の中で日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要である。また、数学的に物事を説明することができる力を身に付けさせることが重要である。

二つのグラフにおけるy 軸との交点につい

て、事象に即して解釈することができるか

どうかをみる

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を

数学的に説明することができるかどうかを

みる

グラフの傾きや交点の意味を事象に即して

解釈することができるかどうかをみる